

31H 濱田萌希 32H 守友奈央 32H 仙崎まりあ
 34H 上村幸大 34H 片倉寛人 36H 大島美礼

■課題

バスの利用者の減少により自治体の負担が大きくなっている

■解決策

利用者特典をつくる

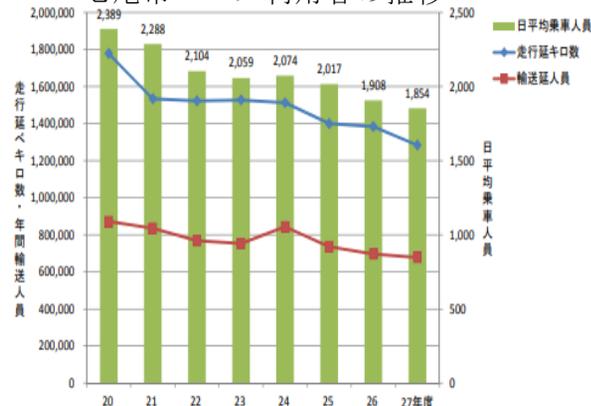
■現状（課題の背景）

1. 利用者の減少

七尾市では、路線バスの利用者数は減少傾向にある。日平均乗車人数は平成 27 年度で 1854 人となり、平成 20 年度の 3/4 まで落ち込んでいる。また、能登地区全体で減少傾向がみられる。

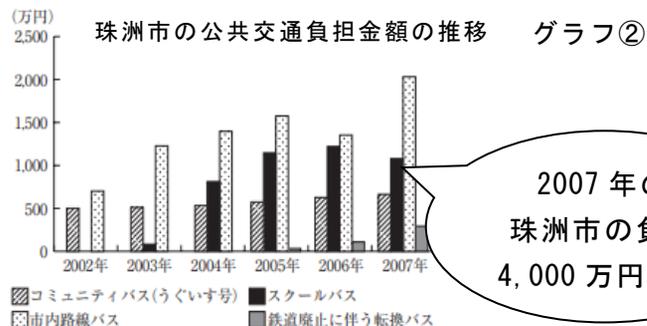
グラフ①

七尾市 バス利用者の推移



2. 自治体のジレンマ（能登地区の自治体で多く見られた）

財政負担を縮小したい



2007年の
珠洲市の負担
4,000万円以上

市民の生活を守りたい

頻繁に利用している市民もいる

珠洲市の利用者傾向

39.5%が 60 歳以上の高齢者で、45%が 19 歳以下
 93.1%は自動車運転免許を持っておらず、
 週 2～3 日以上バスを利用する利用者は 80.5%

■具体的内容



（ターゲット）

車をもっていて現在バスを利用していない人 →主婦、男性

（方法）

1. 運転手は利用者の降車時、ポイントカードにスタンプを押す
2. ポイントがたまると利用者は協力店で割引のサービスを受けることができる

※協力店側のメリットとしてバス会社は協力店の近くにバス停を設置することを検討する

（協力店）

次の条件を満たす店を中心に協力店とする

- ・ 様々な年代の人が頻繁に利用する→専門スーパーなど
- ・ 現在、お店付近にバス停がない

例）七尾市



■効果

バスの利用者

- ・ 協力店の商品が安く買える
- ・ バス停と店が近くなる→バスの利便性が上がる

協力店

- ・ 来客数が増える

バス会社

- ・ 利用者が増える

■参考文献

グラフ①「七尾市統計書」

<https://www.city.nanao.lg.jp/kikakuzaisei/koukyoukoutuu/documents/nanao-moukeikaku03.pdf>

グラフ②「奥能登過疎地域・珠洲市の公共交通の再編」

<https://keikaku.or.jp/pdf/monograph20131211.pdf>